

CKD Regional Report

地域から全国へ、慢性腎臓病対策の取り組み



甲斐市
[山梨県]

山梨県甲斐市では、レセプトデータを元に市が抱える健康課題として
慢性腎臓病(以下CKD)に対して対策を講じてられました。

CKDが進行すると生命予後やQOLに大きな影響を及ぼすとされています。

わが国の透析患者数は現在34万人を超えており、

CKDをできるだけ早期に発見し、適切に対応することが必要とされます。

甲斐市ではどのような取り組みでCKD対策をされているのか、お話を伺いました。

大森 恵美子 様

渡邊 由香 様

甲斐市役所 子育て健康部 健康増進課 成人保健係

Q

現在の甲斐市が抱える
健康課題について教えてください。

大森さん: 令和3年度の甲斐市のレセプトデータより、外来での医療費が占める疾患の上位のうち1位が腎不全、2位が糖尿病でした。

また山梨県内での疾患別の医療費に占める甲斐市の割合は、腎不全が9%、糖尿病が8%、高血圧疾患が9%となっており、それぞれ1割弱でした。

さらに、人工透析の起因疾患別医療費のうち、2型の糖尿病性腎症が61.5%、糸球体腎炎が3.3%、腎硬化症・その他が1.1%で、生活習慣病による2型の糖尿病性腎症が大半を占めておりました。以上を元に、腎不全・糖尿病における対策が甲斐市の課題であると考えています。

Q

CKD対策を開始した理由は
どういったことでしょうか。

大森さん: 市の健康診断において、空腹時血糖値やHbA1cが基準値以上の市民の割合、人工透析の起因となる2型の糖尿病性腎症患者の割合、高血圧によるCKDや腎症、腎硬化症の割合、この3つが高いことに解決の糸口があると考えました。CKDおよび糖尿病の重症化予防を促進することで、結果として透析の新規導入者数の減少や、透析の新規導入時の平均年齢引き上げに繋げることが目標です。

Q

CKD対策を始めるにあたり、健康増進課としてどのような働きかけをされましたか。

渡邊さん：なかこま 中巨摩医師会や市の腎臓・糖尿病専門医の先生方に、市から事業の説明に伺い、協力を得ることから始めました。そこから、専門医の先生方に講師を依頼し、市庁舎内の保健師・管理栄養士を対象としたスキルアップ研修会を実施し、研修会での学びを元に、保健指導の展開を目で見て分かるようなフローにしました。また、この研修のもう一つの目的でもある、顔の見える関係作りができたことで、スムーズにCKD対策の導入・運用ができています。次に、平成28年より特定健診の受診者全員を対象にeGFR値を検査項目に追加しました。また、健診結果の説明会での保健指導体制を変更し、C判定以上の方へは、個別指導を実施しています。(感染症対策により内容を変更することがあります)さらには、空腹時血糖・HbA1c・尿糖・eGFRの精密検査依頼状を作成し、対象者への配布を開始しました。

Q

精密検査対象者への通知方法はどのような方法でされていますか。

渡邊さん：特定健診の結果をお送りする際に、精密検査依頼状と一緒に、返書・返信用封筒を同封しております。返書を医療機関から市役所へ返信してもらうシステムで、実際の受診状況を把握することができます。これらを精密検査管理台帳で管理し、追跡を徹底しています。

Q

CKDにおける精密検査依頼の管理状況はいかがでしょう。

渡邊さん：令和4年度は、精密検査依頼状の配布は354名、うち返信があったのは207名でした。残りの返信がない方へは電話連絡を実施しております。電話連絡では、既に

受診済みの方が70名、未受診の方が15名でした。未受診の方には再度口頭にて受診を促しております。また354名のうち、既に医療機関を受診されている方からは、通院頻度などの治療実態もお聞きし、管理しています。

Q

CKD対策を実施した後、市民や医師からの反応はありましたか？

渡邊さん：「どの病院にかかったらいいの?」という電話が健康増進課にかかってきたりしました。市民の方々にとって、ご自身の体調や健康状態について見直す、そういった機会になっていると感じました。

大森さん：医師は、とても協力的です。依頼状や返信のやり取りで日頃からコンタクトをとることで、健康増進課と医療機関との距離が近くなっているからだと思います。

Q

CKD対策についての振り返りや今後の目標、既に検討されていることがあれば教えてください。

大森さん：レセプトデータから市の現状を把握し、現在抱える健康課題を常時アップデートしていくことが重要だと感じました。今後の目標は、冒頭でもお伝えした通り透析の新規導入者数の減少と、透析の新規導入時の平均年齢の引き上げです。そのために、私たちは要精密検査対象者のうち未受診の方を確実に医療機関の受診へ繋げる必要があります。そこには医療機関との密な連携、精密検査管理台帳の管理の重要性を感じています。

今後の検討課題として、既に実施している健康教育を見直し、実際の行動変容に繋がる内容にしていきたいと考えております。

渡邊さん：台帳の管理や電話連絡のみにとどまらず、健康教育に繋げるなど、その方の健康への介入を念頭に取り組んでいきたいと考えています。

● 甲斐市の慢性腎臓病ネットワーク体制

